

緑肥マルチを活用した

カボチャ・ダイコンの二毛作体系

研究部

このコーナーでは、当センター農業試験場で取り組んだ研究成果をご紹介します。

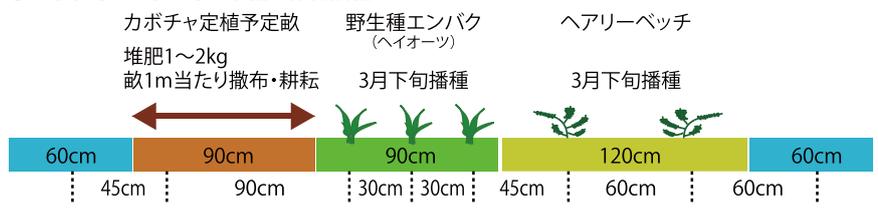
研究部生態系制御チームでは、緑肥を活用して土壌侵食防止や雑草抑制、養分供給、有益土壌生物の誘引と定着促進等を行う、土づくりと高い生産性を両立した栽培体系を開発しました。

本号では、財団農業試験場で行っている緑肥マルチを活用したカボチャ・ダイコンの二毛作体系についてご紹介します。

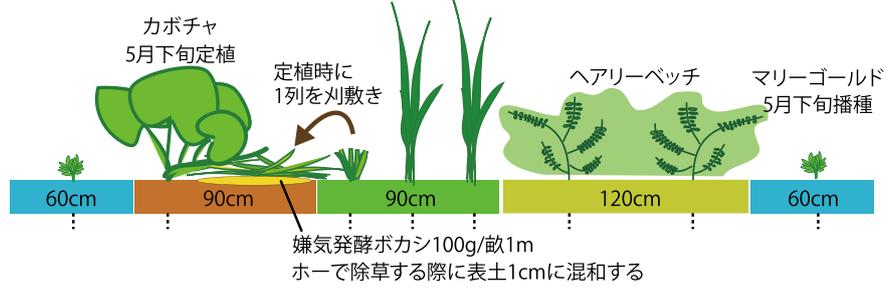
概要

この体系（下記イラスト）では夏作のカボチャが繁茂するまでのうちに、エンバク、ヘアリーベッチ、マリーゴールドを緑肥間作として栽

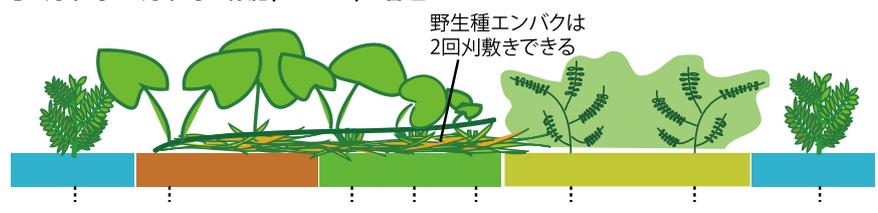
① 3月中旬～5月上旬 準備と緑肥播種



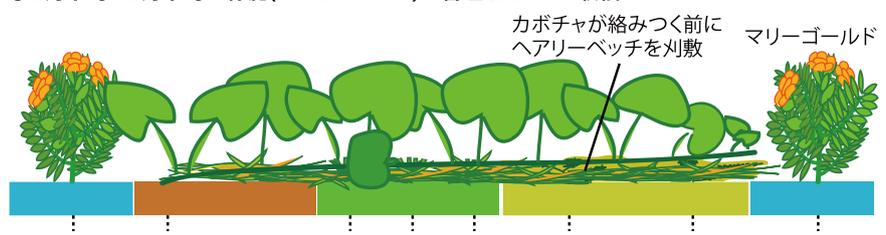
② 5月下旬～6月中旬 カボチャの管理(定植や整枝等)と緑肥(エンバク)の管理



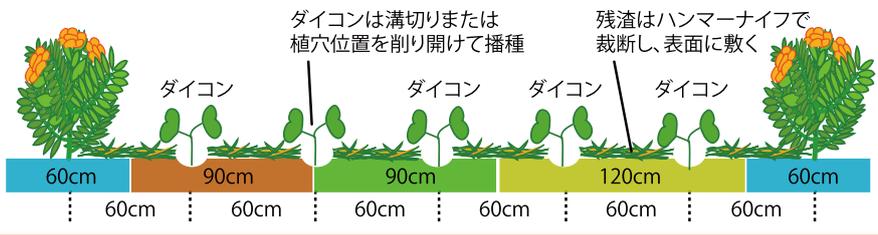
③ 6月中旬～6月下旬 緑肥(エンバク)の管理



④ 6月下旬～8月中旬 緑肥(ヘアリーベッチ)の管理とカボチャ収穫



⑤ 8月中旬～11月中旬 ダイコン播種準備～播種～栽培～収穫





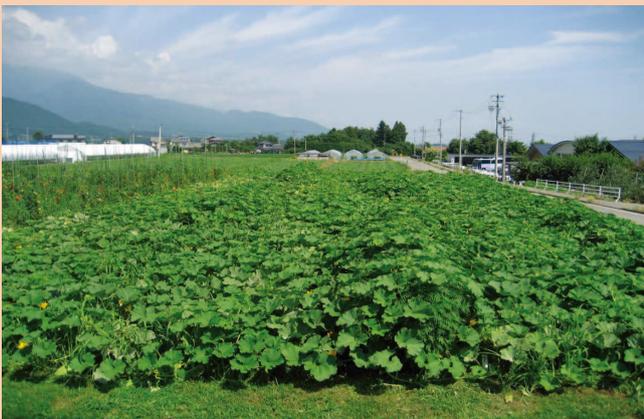
培し、カボチャの蔓の伸長に合わせて刈り取り、随時カボチャ株元や、蔓を伸ばしていく場所に先行して敷きます（緑肥マルチ）。

後作のダイコンは、前作の緑肥とカボチャの蔓を還元するだけで、無施肥で栽培できます。カボチャの間に野生種エンバクを用いると、ダイコンのネグサレセンチュウ被害が軽減されました。

カボチャ、ダイコンともに自然農法で育成された品種が適します。カボチャは二本仕立てで栽培し、「カントリー2号」で10000〜14000kg/10aの収量があり、ダイコンは「ふじ宮重」で3600kg/10a程度の収穫が可能です。

当センター農業試験場は長野県松本市の標高685mにあり、気候区分は寒冷地に当たります。今後適応範囲を検討していく予定です。

この栽培方法について興味を持たれた方は、研究部生態系制御チーム（千嶋：chishima@inr.c.or.jp）までお問い合わせ下さい。



カボチャ最盛期の様子



先行して播種した緑肥が出揃ったところ（イラスト①）



カボチャ収穫後、蔓をハンマーナイフで粉碎（イラスト⑤）



カボチャ定植後、エンバクの一部を刈敷き（イラスト②）



カボチャ後のダイコン栽培の様子



残りのエンバクとヘアリーベッチを刈敷き（イラスト③・④）